新宮の魅力があふれる
霧の森お茶まつりで新茶を満喫

６月７日、道の駅霧の森（新宮町馬立）で「霧の森お茶まつり」が開催されました。当日はあいにくの雨天となりましたが、会場を訪れた人たちは、新茶の季節ならではの催しを楽しみました。

会場では、お茶まつり名物の「茶そばわんこ大会」が行われ、約１００人が参加。家族や友人から声援が送られる中、熱戦が繰り広げられ、会場は大いに盛り上がりました。このほか、お茶どころならではの手もみ茶体験をはじめ、コケ玉作り体験や警察車両展示なども行われ、子どもから大人まで幅広い世代が楽しみました。

地元団体や事業者による出店も並び、訪れた人たちは、新宮茶や特産品を買い求めるなど、新宮の魅力を存分に楽しみました。

第19回書道パフォーマンス甲子園
本戦用の揮毫用紙を裁断

８月２日に開催される第19回大会に向け、揮毫用紙の裁断が５月21日に伊予三島運動公園体育館で行われました。全長３００メートルのロール紙を４メートルごとに手作業で裁断し、約１５０枚の用紙を切り出しました。用紙は、大会前日に各出場校が貼り合わせ、本番で使用する大きな揮毫用紙となります。

柔道に親しむ２日間
しこちゅ～柔道チャレンジフェスタ！

５月16日と17日の２日間、伊予三島運動公園体育館で「しこちゅ～柔道チャレンジフェスタ！」が開催されました。

特別ゲストとして、アテネオリンピックと北京オリンピックで金メダルを獲得した谷本歩実さんと、２０２１年ブダペスト世界選手権で金メダルを獲得した影浦心選手が参加しました。

会場では、経験者向けの柔道教室や未就学児を対象とした畳あそび、シニア向けの転倒予防教室などが行われ、子どもから高齢者まで幅広い世代が柔道に親しみました。

参加者はトップ選手から直接指導を受けながら、柔道の魅力や楽しさに触れました。

祝 世界につながる舞台へ
水泳 脇 栞那さんが全国大会に出場

エリエールスポーツクラブ所属の脇 栞那さん（川之江北中３年）が、水泳の公式・公認競技会で優秀な成績を収め、６月に東京都で開催された、日本選手権水泳競技大会に出場しました。

大会を目前に控えた５月21日、脇さんは市役所を訪れ、全国大会での意気込みを語りました。

若者の移住・定住支援に
㈱大建設計工務が企業版ふるさと納税

松山市に本社を構え、公共施設や民間建築の設計を手掛ける株式会社大建設計工務から、企業版ふるさと納税制度を活用して寄付されました。

５月19日に市役所で行われた贈呈式に出席した正岡秀樹代表取締役社長は、「少しでもまちづくりに役立てていただければ嬉しいです」と話しました。

国際ソロプチミストイースト愛媛
生理用品６９００枚を寄贈

５月25日、女性の生活向上を支援する国際ソロプチミストイースト愛媛（石川紀美子会長・写真中央）から、市内の小学校での利用や災害時への備えに役立ててほしいと、生理用品６９００枚が寄贈されました。

石川会長は「女性や子どもの支援につながれば嬉しいです」と話しました。

親子の歯磨き時間を大切に
宇摩歯科医師会が歯ブラシを寄贈

６月８日、宇摩歯科医師会（髙橋洋一会長・写真左）から、ひとり親家庭に届けてほしいと、幼児用と大人用の歯ブラシ２００セットが寄贈されました。

髙橋会長は「寝る前に親子のスキンシップとして歯磨きに取り組んでもらい、ほっこりとした時間を過ごしてほしい」と寄贈に込めた思いを話しました。

紙のチカラを体感
児童たちが紙の可能性を学ぶ

５月26日、新宮小・中学校で愛媛大学紙産業イノベーションセンターの内村浩美特別栄誉教授による公開授業があり、市内の小学生13人が参加しました。

内村教授は、水や熱に強い紙など、同じ原料でもさまざまな機能を持つ紙が開発されていることを紹介。児童たちは紙の新たな可能性を学びました。

仲間と力を合わせて挑戦
ロボ教材でプログラミング教室

６月10日、新宮小・中学校で愛媛大学社会共創学部の山本智規教授によるロボ教材を用いた公開授業があり、市内の小学生18人が参加しました。

児童たちは、グループで意見を出し合いながら課題に挑戦。思いどおりにロボットが動くようにプログラムを調整するなど、試行錯誤を重ねていました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています

脱炭素経営を学ぶ
四国中央市CN（カーボンニュートラル）協議会がセミナー

四国中央市カーボンニュートラル協議会が、川之江町に本社を置く株式会社富士印刷の大野原工場（香川県）で、5月13日と14日に中小企業向け脱炭素経営セミナーを開催しました。市内を中心とした企業22社50人が参加し、先進的に取り組む同社から脱炭素経営のポイントを学びました。

法皇青年会議所 創立30周年記念事業
紙のまちのご当地落語を開催

5月18日、公益社団法人法皇青年会議所が創立30周年記念事業として、しこちゅ～ホールで「紙のまちのご当地落語」を開催し、市内の高校生約950人が参加しました。本市出身の講談師である神田鯉花（りか）さん（金生町下分）らが、地域の文化などを題材にした講談や落語を披露し、地域の魅力を伝えました。

ちょっとそこまで 広報SAMPO

知っていますか？ 自転車の交通ルール

令和8年4月から、自転車の交通違反に対する「青切符（交通反則通告制度）」が導入されました。信号無視やスマートフォンを見ながらの運転などは、青切符の交付対象となります。交付された場合は、反則金の納付が求められます。

自転車は通勤や通学、買い物など、日常生活に欠かせない乗り物です。この機会に、交通ルールを改めて確認し、安全な利用を心掛けてみませんか。

逆風（ぎゃくふう）満帆（まんぱん）！

四国中央市長 大西賢治

自発的社会活動？

市役所市民交流棟の1階に「ボランティア市民活動センター」がある。そのセンターを拠点に活動している高校生ボランティア「ボラ7（セブン）」が集団で懇談のために訪問してくれた。今年度登録した市内外4高校の1・2年生25名のうちの13名が、限られた時間ではあったが、用意した質問を投げかけてくれ、コミュニケーションを図ることができた。

どの質問も、いい質問ばかりで、自分自身を客観的に見つめなおす良い機会となった。また、これまでは、イベントの際に声掛けをする程度だったので、ボラ7を身近に感じ、高校生目線に近づくことができたような錯覚にも陥った。

「今までに、どんなボランティアをしたか？」という質問の答えを探そうと自らの人生を振り返ってみたとき、どうも違和感を覚えた。というのも、これまであまり自分は「ボランティア」という言葉を意識した活動をしてこなかったように思う。ぼんやりとではあるが、強いて言えば「自発的社会活動」のような感覚の下に、その時々において、PTAや愛護班、自治会や任意団体、或いは公務員という本業の周辺にある様々な活動に、思いを同じくする仲間とともに情熱を傾けてきたつもりはある。

改めて「ボランティア」という言葉を噛み砕きながら、①自主性・自発性、②社会性・公共性、③創造性・開拓性、④無給性・無償性という物差しを当て、記憶を辿った。

旗持ち・登校指導や見守り隊、深夜補導や青パト、芝刈り・草刈り・海岸清掃・川のゴミ拾い等の環境保全、被災地支援や災害ボランティア、まちおこしイベントや子育て支援活動、地域に飛び出す公務員のこと等々。甦った記憶の中から幾つかをボラ7に紹介してみた。

それでも、やはり自らの足跡に「ボランティア」という言葉はどうもしっくりこない。それもそのはず、その言葉が広辞苑に掲載されたのは小職が小学校に上がった頃で、そのころはまだ、世間であまり使われていなかった…

この身が健康である限り、自発的社会活動？は続けたいものだ。